

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める—

話すこと聞くこと部 研究主題

求めて関わり、自他の学びの充実を目指す話合い

第6学年国語科学習指導案

単元名 より良いアイデアを目指して話し合おう ～学校の魅力を伝えるCMづくり～

学習材名「みんなで楽しく過ごすために」（光村図書6年）

日時：令和6年12月20日(金)6校時

児童：小平市立小平第十一小学校 第6学年3組 31名

指導者：小平市立小平第十一小学校 主任教諭 上野 由紀子

1 単元の目標

○言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くことができる。

〔知識及び技能〕(1)ア

○目的や意図に応じて、日常生活から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕A(1)ア

◎互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

〔思考力・判断力・表現力等〕A(1)オ

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切を自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力・人間性等〕

2 単元の評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元 の 評 価 規 準	①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付いている。 (1)ア	①「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。 (A(1)ア) ②「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話合い、考えを広げたりまとめたりしている。 (A(1)オ)	①進んで互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話合い、学習の見通しをもって、考えを広げたりまとめたりしようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

国語の授業アンケート(R6.11 月実施)では、「すすんで学習しているか」との質問に「とてもそう思う」41.3%、「そう思う」53.3%、「あまりそう思わない・分からない」5.4%、「集中して取り組んでいるか」との質問には、「とてもそう思う」43.6%、「そう思う」47.8%、「あまりそう思わない・分からない」7.7%という回答結果が出ている。昨年度のアンケートでは、「すすんで学習しているか」の質問への肯定群(とてもそう思う・そう思う)が88%、「集中して取り組んでいるか」の質問への肯定群が85%であったことから意欲が向上してきていることが分かる。読書に親しむ児童と苦手とする児童の差があり、全体的に中学年程度の分かりやすい文を好んで読む児童の割合が高い。

全国学力調査では、「話すこと・聞くこと」の東京都平均正答率63.9%に対して本校62.3%、「書くこと」の都平均正答率69.9%に対して本校73.1%、「読むこと」の都平均正答率71.4%に対して本校74.4%であった。説明や理由、話し方の工夫について適切なものを選択する問題の誤答が目立ち、適切な言葉かふり返ったり、伝え方を工夫したりする力に課題が見られる。

A「話すこと・聞くこと」領域の話し合う活動では「いちばん大事なものは」で、相手の理由や根拠に注目しながら聞くことや、考えを伝え合うことで自分の考えがどう変化したのか確かめる学習を行った。

今年度の校内研究で特別活動に取り組んでおり、学級全員で学級会に取り組んでいる。司会グループ(5人程度)を中心に「議題」「提案理由」「話し合いのめあて」「決まっていること」「話し合うこと」を確認してから、考えを「出し合う」「比べ合う」「まとめる」活動をしている。それぞれの考えの心配や気になることを出し合い、より多くの人が納得できる意見に合意形成していく過程を経験中である。ICT等を活用して全員の意思表示はしているが、学級全体での話し合いは司会グループや発言に積極的な児童が主導になることが多い。

国語科だけでなく他教科でも話し合う活動を取り入れての学習経験はあるが、ふり返りでは、自分が話した量や集中して話を聞いたか等に意識が向いており、話し合いの過程やその内容についてふり返り、改善する経験が未だ少ない。

本単元で、全員が自分の話し合う活動をふり返り改善しながら計画的に話し合うことで、他者と考えを交流して考えを広げたり、まとめたりする良さを味わってほしい。

(2) 学習材について（学習材観）

主要な行事は次第に終わっていき、来年の卒業、中学校進学を意識し始める時期である。「新一年生保護者へ向けて、学校の魅力を伝える」という活動をする中で、自分たちが生活してきた学校のよさを実感し、下級生へ託そうという気持ちを育てたい。また、低学年の頃の自分を思い返し、6年間の成長を実感することで、卒業・進学への自信や期待を膨らませる機会にしたいと考えている。

相手を児童ではなく新一年生の保護者にすることで、「新一年生に分かるだろうか」という視点は入れずに、自分たちが実感している学校の魅力や成長について、個々の思いを活かしやすくなると考えた。全員が「これを伝えたい」という思いを強くもって話し合えるように工夫したい。

(3) 単元について（単元観）

本単元では、目的や条件に応じて互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合うことが活動の重点となる。見通しをもって学習に取り組めるように、単元の冒頭に教師が司会役となって理由や根拠を聞き合いながら意見を整理するモデルを示す。また、小学校生活最後の話し合いの単元となるので、「話し合い方の検討」の段階でこれまで話し合った経験をふり返りつつ、モデル動画、既習事項の確認表と比較しながら、「考えの伝え方」「考えの見える化」「考えの整理の仕方」の工夫について児童と考える。ここで具体的なポイントを明確にすることで、単元中の話し合いについて自己評価をくり返し、より良い考えにまとめていく学習ができるようにする。

また決定条件を意識しながら、児童自身が意見の広げ方やまとめ方を調整して話し合っていけるように「学校の魅力を伝えるCMづくり」としてCMの上映相手(新一年生保護者)、時間(30~40秒程度)、「CMで取り上げる話題」を設定し、話し合いの進捗はグループごとに変化があってもよいとする。毎時間の話し合いの成果と課題をふり返り、グループごとの話し合いの目標設定と確認の時間をもつことで、全員が納得しながらより良い考えを目指す話し合いのポイントに気付いていけるようにしたい。

4 話すこと・聞くこと部で捉える「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

話すこと・聞くこと部では、「話すこと・聞くこと」の学習における「言葉による見方・考え方を働かせること」を次のように捉えた。

言葉による見方とは、数ある言葉の中で、相手(対象)や目的、話題、聞き手に与える印象や聞き手の様子、話し手の意図や思いに即して使われた話し言葉の意味や働き、使い方に着目することと考えた。

言葉による考え方とは、聞き手の立場や思い、話し手の立場や思いに即して話し言葉のはたらきを捉えなおしたり、説得や推薦などの目的に応じてどのような言葉を使うとよいかと比較・吟味し、言葉の意味や働きを問い直したりすることと考えた。

これらの考えを踏まえて、どのような言葉を選び、どのような言い方で伝えれば相手に伝わるかを自覚化していくことが「言葉による見方・考え方を働かせること」であると捉えた。

5 研究主題に迫るために

(1) 児童が(本単元において)身に付けたい力を意識し、主体的に学習に取り組む。

本単元は、「話すこと・聞くこと」の領域の「話し合うこと」について学習し、みんなが納得できる結論にたどり着けるような話し合いを目指す。そのために必要な力を理解し、自分(自分たちのグループ)に何が足りないのか自覚することが、身に付けたい力を意識することだと考える。また、よりよい結論を出そうと自他の考えを関連付けながら話し合う姿が、主体的に話し合う姿だと捉えた。その姿を実現するために、次のような手立てをとった。

●既習事項の確認表の活用

単元の前半(第2時)に、これまでの話し合う活動について振り返る時間を設けた。6年間の小学校生活の中で、児童は様々な話し合いを経験している。話し合いが上手く進んだときや進まなかったときはどのようなときか、自分たちは何ができていて何ができていないのか、率直に話し合い課題を見付けたい。

また、6年間で学んだ「話し合うこと」の内容を一覧にまとめた確認表を用いて、本単元で身に付けるべき事柄をはっきりさせるとともに、自己のめあてについても意識できるようにする。

●話し合いモデルの提示

本単元の主な言語活動は、グループでの話し合いである。事前に話し合いモデルを動画で見ること、話し合いの進め方や話し合いで使うべき言葉を学ぶ。それにより、自分たちが目指す話し合いの姿を具体的にイメージすることができる。

●話し合う必然性のある話題設定

本単元では、「学校の魅力を伝えるためのCMづくり」のために、CMの内容や構成について話し合うという言語活動を設定した。このCMは、1月末に行われる新1年生保護者資料配布日に流すために制作する。このCMで小平十一小の魅力を伝えることで、新1年生の保護者の方の不安を和らげ、入学を楽しみにする気持ちをもってもらおうというねらいである。

この話題は、小学校で6年間を過ごし、最高学年として学校を支える6年生にとって、やりがいを感じるものである。自分たちの活動が人の役に立つということが、「よいCMをつくりたい」という意欲になり、「充実した話し合いを行いたい」という主体性を生むと考えた。

●3回の話し合い活動の設定

本単元では、グループでの話し合いが以下の3回設定されている。

- ①CMの話題について「一番伝えたいこと」を決める話し合い
- ②CMの構成(はじめ・中・終わり)を決める話し合い
- ③CM制作に必要なことを決め制作計画を立てる話し合い

話し合い後に振り返りを行い、よかった点を伝え合ったり自己やグループの課題を見出したりする。単元の中で次の話し合いが設定されていることで、学んだことをすぐに実践することができ、効果的に話し合いの力を高めることができると考えた。

●ICTを活用した振り返りの蓄積

学習の振り返りは、ロイロノートに記載していく。ロイロノートを活用することで、教師が児童の書いたものを見ることができ、児童もいつでも振り返りを見直すことができる。また、児童同士が共有することも容易なので、互いの学び合いに生かすことができる。

- (2) 学習活動（言語活動）において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ人と関わり、新たな考えをもつ。（確かにする、広げる、高める、深める、などを含む）

● テーブルシートの活用

自分の考えを書いたカードを1枚の台紙（テーブルシート）に貼り、動かしながらかし合おう。カードに書くことで、全員が自分の意見をもって話し合いに臨むことができる。また、互いのカードを見比べることで、共通点や相違点に気づきやすくなる。

テーブルシートは、話し合いの過程で気付いたことや新たな考えを書き込むことができ、グループでの話し合いの跡を残すことができる。話し合いを可視化することによって、児童自身も自分たちの話し合いがどのように進んでいるか自覚しやすくなり、教師もそのグループの話し合いの流れを見取りやすくなる。また、テーブルシートは、話し合いの内容や目的に合わせて型を変えることができる。ゴールが明確になり、見通しをもって話し合うことができ、話し合いを活性化することにつながる。

● 話し合いの目的、決定条件の明確化

「何のためにCMをつくるのか」「どのようなCMを目指すのか」を児童とともに話し合い、「決定条件」としてまとめ、提示する。この決定条件を拠り所とすることで、グループの皆が同じ方向を向いて話し合うことができ、よりよい意見が生まれるなど、話し合いの質が高まると考える。

● 自己の経験が生かせる話題

本単元の話題「学校の魅力を伝えるCMづくり」の内容や構成を話し合う際に、自分の意見やその根拠の主となるものは、これまでの小学校生活での経験である。身近な話題であるからこそ、全員が自分事として捉えることができる。また、取材をする対象も、自分の家族や今の1年生など、身近に数多く存在する。児童が多様な人々と関わり合いながら学習を進め、自分の考えを広げたり深めたりできると考えた。

- (3) 獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

本単元で獲得できる言葉の力は、「自分の考えを理由や根拠を明らかにして伝える力」「目的や条件に照らして、複数の意見を関連付けながら話し合う力」「考えを広げる話し合いと、まとめる話し合いを通して、結論を出す力」などが挙げられる。

「自分の考えを理由や根拠を明らかにして伝える力」を身に付けることで、説得力のある発言ができるようになる。これは、各教科等の学習で自分の意見を伝えるときに生かされる。また、「説得力をもたせる」という点では、意見文などの文章を書くことにも通じるものがある。更に、自分の考えを相手に適切に伝えることは、円滑な人間関係の構築にも欠かせない。これから、中学校に進学し、多様な人と関わり合うに当たって、この力は大いに生かされると考える。

「目的や条件に照らして、複数の意見を関連付けながら話し合う力」「考えを広げる話し合いと、まとめる話し合いを通して、結論を出す力」は、学級活動や委員会活動、学校行事や総合的な学習の時間の話し合い活動に生かされる。高学年は、児童主体で計画したり実行したりする機会が多い。また、中学校生活では、より自主的に活動したり決定したりする力が求められる。本単元で身に付けた力を発揮して話し合うことは、よりよい結論、皆が納得できる結論を導き出すことにつながる。

本単元の活動は、CM制作につながり、他教科の学習へとつながっていく。言葉を通して、自己を表現したり他者と関わったりする力を伸ばすことで、より生活が充実することが豊かな言語生活の実現につながると考える。

6 単元計画

過程 (次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
話題の 設定 情報 の 収 集	1	1 新一年生保護者に学校の魅力が伝わるCMづくりをするという活動の見通しをもつ。 2 自分が1年生だった頃をふり返り、学校生活の楽しさ、不安や心配などを想起する。 3 想起したことをもとに、CMの内容を話し合うとき、どんなCMを目指すといいか考えて決定条件を決める。 【本学級の決定条件】 新一年生保護者の方が安心して楽しむようになるように ・具体的にどんなことができるか分かるCM ・実際の様子が分かるCM ・1年生に関係があるCM 4 どんな話題で制作するといいか出し合い、自分がCM制作をしたいものを考える。 【児童が考えた話題】 ・給食 ・行事(運動会・移動教室・遠足) ・保健室・図書室 ・なかよし班 ・友達 ・授業 ・先生 ・委員会 ・校庭 ・中庭 ・先輩 ・お楽しみ会等	○実際の保護者の声、1年生担任からの依頼として紹介し、相手(新一年生保護者)意識、目的意識(入学を楽しみにしてもらうため)を明確にして意欲をもてるようにする。 ○話し合って決める時の拠り所となるものが決定条件であることを確認し、児童の言葉で作り上げられるようにする。 ○教師が司会をしながら学級全体で話し合い、考えの理由と根拠を述べる良さを確認する。 ○主体的な話し合いになるように、児童がCM制作をしたい話題を選び、教師がグループ編成する。(3～4人)	〔主体的に学習に取り組む態度〕 <u>観察・</u> <u>ふり返りシート</u> ① 学習の見通しをもち、目的や条件を意識して話題を考えているかの確認
	課外	・これまでの学校生活をふり返ったり、身近な1年生や保護者などから、学校生活で心配していたことや楽しかったこと、知りたかったこと等をインタビューしておいたりする。	○1年生～6年生までをふり返り、思い出や成長を感じることで、家の人の意見等、視点をもたせておく。	
話し合いの 進め方 の 検 討	2	1 CMづくりができるように3回の話し合いで何を決めていくといいか考える。 2 「話し合うこと」確認表を見ながらこれまでの話し合う活動の経験をふり返り、自分の力を自覚する。 3 話し合いのモデルを見て、考えを広げるとき、まとめるとき、それぞれで意識するとよいことを出し合う。	○経験してきた話し合う活動を想起しながら自分の力を振り返り、つけたい力を自覚して目標がもてるようにする。 ○モデル動画を見せ、考えを広げる話し合いとまとめる話し合いがあること、話し合いで意識したいこと(目的・形態・ツール)を考えられるようにする。	② 身に付けたい力を意識して学習に取り組もうとしているかの確認

考えの形成		4 自分自身の話合いの目標、グループの話合いの目標を立てる。 5 話合い1回目で伝える自分の考えを付箋に書く。	○目標の記入や学習のふり返りには、自分自身で蓄積しやすいように、ロイロノートを活用する。 ○誰の意見が分かりやすいように付箋の色を各個人で変える。	〔思考・判断・表現〕 観察・ ふり返しシート ①理由と根拠を意識して自分の考えを述べたり、聞き合ったりしているかの確認 ②決定条件を意識しながら考えを広げたり、まとめたりしているかの確認
	3 話 合 い 一 回 目	1 本時のめあてと話合い目標を確認する。 2 自分の考えを付箋に書きながら見直したり、付け足したりして、話合いに備える。 3 CMの話題について、考えた理由や根拠をたずねながら「伝えたいこと」を聞き合い、考えを広げる。 4 決定条件を確認しながら、新1年生や保護者の気持ちを想像して「一番伝えたいことは何か」話し合って決める。 5 グループでの話合いをふり返り、次回の話合いの目標をロイロノートに記入する。 6 各自の目標をふり返り、終わった児童から、次回の話合いに備えて自分の考えを付箋に書く。	○今日はどこまで話し合うのかを確認し、計画的に話し合うよう助言する。 ○理由や根拠を大切にしてい伝え合えるように準備するよう助言する。 ○テーブルシートを活用して意見を可視化するように確認する。 ○グループの話合いで、テーブルシートの活用方法やよい話合いの様子を途中で全体に伝え助言する。 ○グループごとのふり返りの前に教師からこの時間に見られたよい話し合いの姿を紹介する。 ○次回に向けて「一番伝えたいこと」を表すために、各自で「CMに入れたいこと」を考える時間を設ける。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 観察・ ふり返しシート ③進んで友達と計画的に話し合っているかの確認
	4 本 時 話 合 い 二 回 目	1 前時までをふり返り、本時のめあてや話合い目標を確認する。 2 自分の考えを付箋に書きながら見直したり、付け足したりして、話合いに備える。 3 「CMに入れたいこと」について、理由や根拠をたずね合いながら聞き合い、考えを広げる。 4 決定条件を確認しながら、どんな構成にするか「はじめ・中・終わり」を話し合って決める。	○今日はどこまで話し合うのかを確認して計画的に話し合うよう確認する。 ○内容、構成が詳しく決まるように具体性のある意見が出せるよう助言する。 ○出し合った意見を見やすく構成図にまとめられるように、テーブルシートを工夫する。 ○テーブルシートを活用して話合いを可視化できるように、使い方を助言する。	

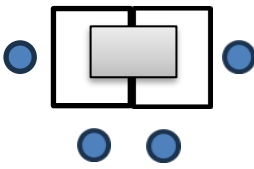
考 え の 形 成		5 グループの話し合いをふり返り、次回の話し合いの目標をロイロノートに記入する。 6 各自の目標をふり返り、終わった児童から、次回の話し合いに備えて自分の考えを付箋に書く。	○次回に向けて「実際に制作するために必要なこと」を考える時間を設ける。	
	5 話 合 い 三 回 目	1 前時までをふり返り、本時のめあてや話し合いの目標を確認する。 2 自分の考えを付箋に書きながら見直したり、付け足したりして、話し合いに備える。 3 「CM 制作に必要なこと」(道具、場、方法等)を出し合い、整理し、必要なことを話し合って決める。 4 早く終わったグループは他のグループと交流する。 5 グループの話し合いの目標をふり返る。 6 各自の話し合いの目標をふり返る。	○CM の時間(30～40 秒)、制作時間(4 時間程度)、期日(1 月 25 日)などを意識できるように声を掛ける。 ○この話し合い以降は実際に制作に入っていくことを意識して意見を出せるように助言する。 ○構成をもっと詳しく決める必要性に気付いた場合は、引き続き、構成から話し合ってよいことを伝える。 ○計画が決まってきたグループ同士で交流し、互いに助言し合えるよう指示する。	〔思考・判断・表現〕 観察・ ふり返りシート ②決定条件を意識しながら考えを広げたり、まとめたりしているかの確認
共 有	6	1 構成・制作計画を他のグループと共有し、助言し合う。 2 グループの話し合いの目標をふり返り、成果をまとめる。 3 自分の話し合いの目標をふり返り、単元全体の感想をまとめる。 4 感想を共有する。	○3 回の話し合いを通して児童の達成感や成長を感じる様子を具体的に教師が紹介し、学びの様子を価値づける。 ○第2時で使用した「話し合うこと」確認表も再度活用する。	〔主体的に学習に取り組む態度〕 観察・ ふり返りシート ④学習をふり返って学んだことや身に付けた力を意識しているかの確認

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

目的や条件を意識し、互いの共通点や相違点を整理しながら話し合い、考えをまとめることができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
1 本時のめあて、話し合いの目標を確認する。	○ 前回のふり返りの記述を紹介して、本時の話し合いのこつや意欲につなげていく。	
「一番伝えたいこと」が表せるように CM の構成を決めよう		
2 自分の考えを付箋に書きながら見直したり、付け足したりして、話し合いに備える。 3 グループで話し合う。 【本時の話し合い】CM の構成を決めよう ○ 今日話し合うことを確かめる。 ○ 自分の考え(付箋)について理由を述べながら出し合う。 ○ 具体的なことや根拠をたずね合いながら整理する。 ○ 決定条件を意識し、出た考えの良さを活かしながら、「はじめ・中・終わり」の構成図にまとめる。	○ 前回より具体性のある意見になるよう意識して見直すよう助言する。 ○ 自分の考えを伝え合うときに、理由や根拠を大事に聞き合うように助言する。 ○ 決定条件を意識できるようにテーブルシートを工夫する。	〔思考・判断・表現〕 観察・ワークシート ・ 決定条件を考えながら、考えを広げたりまとめたりできているかの確認
 ○ 付箋は個人で色を分け、誰の意見が分かりやすくする。 ○ 机は二つにして同じ方向から見る。 【本学級の決定条件】 新一年生保護者の方が安心して楽しみになるように ・ 具体的にどんなことができるか分かる CM ・ 実際の様子が分かる CM ・ 1 年生に関係がある CM	○ テーブルシートで考えを可視化し書き込みながらアイデアを練っていくよう助言する。 ○ 良い話し合いの姿を自覚できるように授業の途中で教師からも良い例を具体的に伝える。	〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕 ・ 計画的に考えをまとめられるように、互いの意見の理由や根拠を聞き、共通点や相違点を整理して話し合っている。 ・ 条件に合うように互いの考えの良さをいかして話し合っている。
4 グループの話し合いの目標をふり返し、次の話し合いの目標をロイロノートに記入する。	○ ロイロノートを活用してふり返りを即時共有し、児童の言葉を紹介する。	
5 各自の目標をふり返し、終わった児童から次の話し合いに備えて、今日決めた構成で制作するために必要なことを考えて、自分の考えを準備する。	○ 次回に向けての自分の考えは付箋に書いておくようにする。	

8 資料

(1) テーブルシート

話し合い①

話題について「伝えたいこと」を出し合い、「一番伝えたいこと」を決める。

【決定条件】

新1年生や保護者の方が安心して、楽しみになるように

- ・ かな CM にする。
- ・ かな CM にする。

・30～40秒くらい、新1年生資料配布日に保護者に見せる。

話し合い1回目で決まったこと

【(話題)】について、一番伝えたいことは、

話し合い②

CMの内容について「入れたいこと」を出し合い、CMの構成を決める。

【決定条件】

新1年生や保護者の方が安心して、楽しみになるように

- ・ かな CM にする。
- ・ かな CM にする。

・30～40秒くらい、新1年生資料配布日に保護者に見せる。

はじめ

中①

中②

終わり

話し合い③

CM制作に「必要なこと」を出し合い、「制作計画」を立てる。

必要なこと

CM制作計画

場所	
道具	
手順	
分担	
その他メモ欄	

(2) ロイロノートによるふり返しシート

グループの話合いの目標を話し合っ
て設定し、記入する。

CM制作に向けて、3回の話合いで
何を話合っていけばよいか決めて記
入する。

ふり返しシート	
①学習の見通しをもち、 話題設定をしよう。 【ふり返し】	自分自身の話合いの目標
②話し合い活動をふり返し 目標設定をしよう。 【ふり返し】	
③CMの話題について、 一番伝えたいことを決めよう。 【ふり返し】	話し合いの目標達成度 グループ☆☆☆ 個人☆☆☆
④話し合い一回目のグループの話合いの目標 ④一番伝えたいことを表せる 構成を決めよう。 【ふり返し】	話し合いの目標達成度 グループ☆☆☆ 個人☆☆☆
⑤話し合い二回目のグループの話合いの目標 ⑤制作に必要なことを考えて制作 計画を立てよう。 【ふり返し】	話し合いの目標達成度 グループ☆☆☆ 個人☆☆☆
⑥学習をふり返って、身に付けた話し合いの力を明らかにしよう。 【単元全体のふり返し】	

自分はどのように参加するか考えて、自分自
身の話し合いの目標を設定し、記入する。

(3) 本時の板書計画

本時の流れ ①今日のめあて確認 ②話し合いの目標の確認 ③話し合い(二回目) ④グループのふり返し ⑤自分のふり返しと 次回の準備	次回へ向けて考えておくこと CM制作に必要なこと	【考えをまとめる話し合いのこつ】	【考えを広げる話し合いのこつ】	【三組の決定条件】 新一年生保護者の方が安心して楽しむようになるように ・ 資料配布日に保護者に見せる ・ 三十分四十秒位 ・ なCM ・ なCM	より良いアイデアを目指して話し合おう ～学校の魅力が伝わるCMづくり～
---	--	-------------------------	------------------------	---	---

(4) ワークシート(ノートに貼付)
第 1 時

◆決定条件

(例)・新一年生や保護者の方に、安心して楽しみなってもらえるように、
小学校のことがよく分かるCM・十一小に興味をもてるCMにしよう。
・三十〜四十秒
・新一年生資料配布日に保護者の方に見せる。

◆CMづくりに向けて、自分の小学校生活をふり返り、周囲の人の思いを聞いてみよう。(宿題)

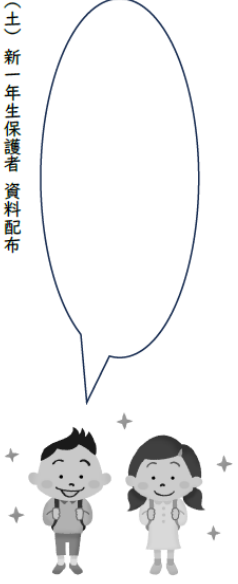
◆一年生から六年生までをふり返ってみよう。
(幼稚園・保育園との違い、不安だったこと、楽しんだこと、成長したことなど)

◆身の回りの人に聞いてみよう。
(一年生↓入学して楽しかったことは？ 家の人↓入学前に心配したことは？)

◆単元名

一月二十五日(土) 新一年生保護者 資料配布

(例)よりよいアイデアを目指して話し合おう



1 年生の自分

第 2 時

◆めあて

話し合い活動をふり返って、目標設定をしよう。

◆六年間で学んだ「話し合うこと」の内容を見て、自分の力を点検してみよう。

6年生	5年生	4年生	3年生	2年生
◆話し合って考えを広げる。 ☐ 全員が意見を出し、互いの考えを認めながら話し合う。 ☐ 出された意見について、質問したり、考えを足したりして、考えを広げる。 ●進捗を考えた話し合う。 ☐ 話し合いの目的と、決めること、役割、進め方を確かめる。 ☐ 出た意見の、同じところや違うところを整理しながら進捗する。 ☐ 司会の進捗に沿って、みんながどうやって決めるのかを意識しながら話し合い、考えをまとめる。	◆話し合って考えを広げる。 ☐ 全員が意見を出し、互いの考えを認めながら話し合う。 ☐ 出された意見について、質問したり、考えを足したりして、考えを広げる。 ●進捗を考えた話し合う。 ☐ 話し合いの目的と、決めること、役割、進め方を確かめる。 ☐ 出た意見の、同じところや違うところを整理しながら進捗する。 ☐ 司会の進捗に沿って、みんながどうやって決めるのかを意識しながら話し合い、考えをまとめる。	◆話し合って考えを広げる。 ☐ 全員が意見を出し、互いの考えを認めながら話し合う。 ☐ 出された意見について、質問したり、考えを足したりして、考えを広げる。 ●進捗を考えた話し合う。 ☐ 話し合いの目的と、決めること、役割、進め方を確かめる。 ☐ 出た意見の、同じところや違うところを整理しながら進捗する。 ☐ 司会の進捗に沿って、みんながどうやって決めるのかを意識しながら話し合い、考えをまとめる。	◆話し合って考えを広げる。 ☐ 全員が意見を出し、互いの考えを認めながら話し合う。 ☐ 出された意見について、質問したり、考えを足したりして、考えを広げる。 ●進捗を考えた話し合う。 ☐ 話し合いの目的と、決めること、役割、進め方を確かめる。 ☐ 出た意見の、同じところや違うところを整理しながら進捗する。 ☐ 司会の進捗に沿って、みんながどうやって決めるのかを意識しながら話し合い、考えをまとめる。	◆話し合って考えを広げる。 ☐ 全員が意見を出し、互いの考えを認めながら話し合う。 ☐ 出された意見について、質問したり、考えを足したりして、考えを広げる。 ●進捗を考えた話し合う。 ☐ 話し合いの目的と、決めること、役割、進め方を確かめる。 ☐ 出た意見の、同じところや違うところを整理しながら進捗する。 ☐ 司会の進捗に沿って、みんながどうやって決めるのかを意識しながら話し合い、考えをまとめる。

(5) 話し合いモデル (CM の話題: 図書室) A 司会

A	これから、話し合いを始めます。私たちのグループは十一小の図書室について話し合います。今日の話し合いは私が司会をします。よろしくお願いします。	話題の確認 (あいさつ)
B C D	よろしくお願いします。	
A	十一小図書室について、一番伝えたいことが決まる話し合いにしましょう。 どんなことを伝えたいか順番に話しましょう。では、私から話しますね。 私は図書室で、「新しい本にたくさん出会える」と伝えたいです。 <u>なぜなら</u> 幼稚園や保育園では持って帰ることができないけれど、毎週2冊借りられるようになるからです。私が1年生のときは、 <u>図書の時間</u> に司書の先生が読み聞かせをしてくれる時間が大好きでした。みんなはどうですか？	目的の確認 内容の提案 (理由や根拠を 言いながら)
C D	うん (うなずく)	
B	僕も似ていて「面白い本がいっぱいだよ」とカードに書いたよ。(Aさんのカードの近くに自分のカードを置く) 十一小ってヨシタケシンスケさんの本とかティラノサウルスシリーズなど、1年生が好きそうな本がたくさんあるよね。 <u>特に</u> 、「おすすめの本」紹介コーナーがあることを伝えたいな。見ていて楽しいよ。	内容の提案 (相手の話を受けて・具体を伝えて)
C	わたしは「読み聞かせやビブリオバトルがある」と書きました。	
A	どうしてそう思ったの？	理由根拠が足りない提案
C	この間やったビブリオバトルで、1年生が「全部読みたい！」って言うほど熱心に聞いてくれたから、そういうのでもいいのかなと思って…なかよし班の読み聞かせでも仲良くなれたし…	理由や根拠の確認
A	6年生が関わってくれる様子を知るとおうちの人も安心してくれそうだよね。 ~~~~~ ※話し合いはつづく (省略) ~~~~~ ~~~~~	
A	みなさんから、伝えたいことがいくつか出ました。整理してみます。 今出ている意見は、 ・新しい本に出会えるよ ・面白い本がいっぱいあるよ ・おすすめの本紹介コーナー ・読み聞かせ、ビブリオバトル ・本の福袋 ・しおりのプレゼント です。	出た意見の確認
D	「読み聞かせ、ビブリオバトル、福袋、しおり」とかって、全部6年生がやってくれる活動で、同じ仲間に分類できそうだね。	
B	「6年生がお世話してくれるよ」というグループにしようか。(書き込む)	分類、整理
A	いいですね。分類できてきたので、決定条件を意識しながら「一番伝えたいこと」を考えてみましょう。決定条件は、 新1年生と保護者の方が入学を楽しみにして、安心できるように ・十一小のことがよく分かるCMにする ・30~40秒位で、資料配布日に保護者の方に見せる この中から「一番」伝えたいことっていうと… でした。	決定条件の確認

D	決定条件から考えてみると、小学校ならではの内容を伝えた方がいいと思うよ。	条件に合わせた 意見の整理
A	そうだね。私も学校だからできる読書の活動がいいと思う。	
C	うちの人が見る CM だから、6 年生がいっぱいお世話してくれることを伝えると安心するかもしれないね。	
A	そうすると、「6 年生がお世話してくれるよ」というのを一番アピールしたらよさそうだね。これでいいですか？	意見の付け足し 理由の確認
B	でも実際にどんな本があるかも伝えたいな。	
A	どうしてそう思ったの？	
B	「十一小の図書室」の CM だけど、6 年生のお世話の様子だけだと、図書室の様子が伝わりにくいと思う。	折り合いをつける (A + B の例)
D	じゃあ、「面白い本がいっぱい」ってことと、6 年生の活動のことを両方入れた内容にしたらいんじゃないかな。	
C	それがいい！くっつけてみよう。	
A	では、「6 年生がお世話してくれるし、面白い本がいっぱいあるよ」という風にまとめてみるのはどうですか？	
B C D	はい（うなづく）	

第2時で自分自身の話合いの目標を設定し、第3時から5時はグループの話合い目標を設定した。話合いの後にはグループ、個人それぞれの目標を★の数で自己評価した。

「單元全体のふり返り話し合いの技術がすでに伸びた！自分が会社のときには決定条件をしつかりもとに話し合いを進めることができました。途中で話し合いに引つかなかったときには決定条件をもう一回確認して話し合いを進めることができました。またみんながみんなの意見を尊重し合うことによつて話し合いをスムーズに進めるためにも大切なことが分かった。また、話をうまくまとめたり、意見に意見を加えたりすることにより良くなるということが分かった。」

自分の意見もしっかり言うけど、友達の見解もしっかり聞く。
(みんながみんなの意見を大切に)

【單元全体のふりかへ】①回目の授業の時よりもい身のあった話し合いにすることができた。②回目の授業の時話し合いの目標のレベルははかかなり高難易度だったため星3がつかなかった。3学期でこの話し合いの目標も達成できるようになっている。グルーブ法でたてた、3つの目標はこれから中学・高校・大学・社会人になってもい中でも特に社会人では、なにがいつのこを成し遂げるために会議などに開いて双方の意見を聞いて、尊重・理解し合ってこの変化の激しい未来の中で、多様性を大事にしていっていくことが大切だと思うのでこれからこの振り返りシートでたてた目標を忘れずに会議や話し合いに参加したい。

決定条件を音で
ことですね。さばり

2024/12/27